

一九五六年七月二十五日  
発行



第39卷 第4号

史学・地理学・考古学

- 清代淮南塩販路の争奪について (上)……………佐 伯 富 (1)
- 丹波国宮田庄の研究 ……………田 中 稔 (21)
- 最近における殷式遺蹟の研究と発掘 (上)……………伊 藤 道 治 (45)
- 金城公主の入蔵について (下)……………佐 藤 長 (63)

書評と紹介

- William E. Leuchtenburg: Progressivism and Imperialism…志 邨 晃 佑 (80)
- Pierre Gourou: The Tropical World, Its Social and  
Economic Conditions and its Future Status……………佐々木高明 (84)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

東洋史研究会

振替口座京郵三七二八号

- ⑧ 會文正公全集奏稿卷三六「楚岸塩引淮川分界行銷疏」
- ⑨ 同書卷三六「談復楚省淮南引地摺」(同治十年三月十九日)
- ⑩ 四川塩法志卷一「同治十年」「戸部奏略」
- ⑪ 同書卷一「同治十一年条」
- ⑫ 東華統録光緒卷九光緒二年閏五月丙寅「吳鴻恩奏」
- ⑬ 沈文肅公政書卷六「收回淮南引地應遵部議迅速舉行摺」(光緒二年七月初五日)
- ⑭ 東華統録光緒九光緒二年五月戊申「周声澍奏」
- ⑮ 清史稿卷一二九食貨志「塩法」
- ⑯ 四川塩法志卷一二「濟楚」下光緒二年条
- ⑰ 丁文誠公奏稿卷一三「籌辦黔岸塩務官運商銷摺」(光緒三年七月二十二日)
- ⑱ 四川塩法志卷一二「濟楚」下光緒四年「戸部奏略」
- ⑲ 沈文肅公政書卷六「收回淮南引地應遵部議迅速舉行摺」(光緒二年七月初五日)
- ⑳ 同書卷七「淮南遼完川鄂餉銀懇立限收復楚岸摺」(光緒三年九月二十八日)
- ㉑ 清史稿卷一二九食貨志「塩法」
- ㉒ 東華統録光緒卷三四光緒六年四月庚申「吳元炳奏」
- ㉓ 沈文肅公政書卷七「淮南包完川鄂餉銀請俟准塩開售之日為始片」(光緒三年九月二十八日)

### 石田梅岩全集(上下二卷)の公刊について

心学の鼻祖石田梅岩の全集が、今般柴田鳩翁以来四代京都明倫舎主として心学の伝統を継承されている京都大学教授柴田実氏の編集・校合・校正によって公刊されることになり、過日その上巻が出版された。上巻には梅岩の名著「都鄙問答」「後約齊家論」及び「石田先生語録」が収録され、下巻には「莫妄想」と門人の編纂にかかる「石田先生事蹟」及び門人知友に宛てた書簡二百數十通が収録される筈である。何よりも本書の公刊の意義ある点は、教授の企画と努力によって原本又はそれに準ずる良本を底本とし諸本を博搜して厳密な校合がなされている点であり、更に高弟達が書入れた註解が今回新しく収録され梅岩の思想を研究する上に多大の便宜が与えられた点である。梅岩の名著「都鄙問答」は既に梅岩の生前に刊行され、最近では岩波文庫等にも収録されていたが、書簡類や門弟書入の註解等までを含めた完全な「梅岩もの」の全集としては勿論本書が始めてである。小さなことではあるが、石田梅岩の名は従来梅庵と書かれひろく世に行われているが、自筆署名が唯一の例を除いて皆梅岩と書かれている為にこれを採用している点にも、原本を重視した態度がよく見られる。ともあれ日本思想史上、特異な地位を占める心学の研究が、本書の公刊によって劃期的に進められることになるであろうことは疑いない。(発行所 東京都中野区文園町二六 石門心学会、上巻定価一、二〇〇)

— 石田善人 —

②4 郭宝鈞「B区発掘記之一」「同二」(安陽発掘報告第四期)。

②5 董作賓「甲骨学五十年」頁五四。

②6 卜辞にあらわれる門は、色々な種類があり、未だ正確な見解はない。従つてこのように簡単に結びつくかは疑問であるが、参考にすべき事例である。

②7 註②3

②8 石璋如「第七次殷墟発掘—E区工作報告」(安陽発掘報告第四期) 図版一参照。

②9 註②5

③0 董作賓「甲骨文断代研究例」(慶祝蔡元培先生六十五歲論文集、上冊)

③1 このグループの卜辞にあらわれる祭祀対象は第一期王朝卜辞のものとは多少異なる。

③2 河南省文物工作队第一隊「鄭州市古遗址、墓葬的重要發現」(通訊五五年第三期)

③3 河南文物工作队第一隊「鄭州發現的商代製陶遺跡」(文參五五年第九期)、「鄭州市銘功路西側發現商代製陶工場、房基等遺址」(文參五六年第一期頁六四)

③4 河南文物工作队第一隊「八ヶ月来的鄭州文物工作概況」(文參五五年第九期)

③5 梁思永「後岡發掘小記」、劉燿「河南濬縣大賚店史前遗址」

(田野考古報告第一冊)。新石器、特に黑陶期には普通のである。

③6 張建中「鄭州市北郊紫荆山一带發現商代遺跡」(文參五四年第十一期)、河南文物工作队第一隊「鄭州發現的商代製陶遺跡」

後者もやはり製陶窑址に近接したものである。

③7 前掲「八ヶ月来的鄭州文物工作概況」、「洛陽澗西孫旗屯古遗址」、考古研究所西安半坡工作队「西安半坡遗址第二次發掘的主要收穫」(通訊五六年第二期)

③8 胡繼高「白灰面究竟是用什麼做成的」(文參五五年第七期)

新入会員(一)

有泉	貞夫
安藤	証憲
石田	真一
石躍	胤央
稲垣	泰彦
岩根雄治郎	
内海	佑治
大山	喬平
小川	徹
小田富士雄	
門脇	俊彦
金	載元
工藤	敬一
桑原	公德
小林	公徳
小林	鳳門
芝原	拓自
下村	弘巖
田代	守人
田中	彰
坪田	嘉子

⑳ 冊府元龜前掲の条には「雍州」とあるが誤りであろう。

㉑ 旧伝は公主の訃報の到着を二十九年春にかけている。

㉒ 拙稿「西蔵文獻の史料的价值」(下)東洋史研究第十一卷二  
号六〇頁。

㉓ 藤田壘八「慧超往五天竺国伝箋釈」第二北京版、民国二十年、  
五二丁表。

㉔ 前掲書三三丁裏。又本論文「中」六九頁参照。

〔略語表〕

新伝―新唐書卷二一六上、吐蕃伝上

旧伝―旧唐書卷一九六上、吐蕃伝上

DTH―J. Baot, F. W. Thomas & Ch. Toussaint, Documents  
de Touen-Houang relatifs à l'histoire du Tibet, Paris, 1940-46.

〔追記〕

金城公主と吐蕃のツェンポとの間に子があつたかどうかは中国  
の記録では全く不明である。ただプトンには次代のツェンポ、チ  
ンデツェンが公主の子として生れたことを言っているが、吐蕃  
年代記の記載によれば、この事實は全く認めることができない。

又広徳元年(七六三)に吐蕃は長安に侵入したが、そのとき僂  
偏政権を建てて公主の兄弟広武王承宏を天子の位に即させた。公主  
の入蔵によつて吐蕃人が公主の一家に親近感を抱いていたことは  
けだし当然と言うべきであろう。

右の二つの事實については近く発表する「吐蕃の長安侵入につ  
いて」(京都大学文学部五十周年記念論集)のうちに詳細に述べ  
ておいたから、ここではこれ以上は触れないことにする。

新入会員

戸田	芳実
戸塚	雅夫
中村	義賢
中戸	哲
永原	慶二
蓮岡	法暉
林	幹弥
東森	市良
藤岡	大拙
細川	龜市
堀口	康夫
松本	久子
森	正夫
山香	茂
山口	義広
横山	裕男

投稿についてのお願

「史林」が定ページ、定期刊行が略々順調に進んでいること  
は、会員各位の御熱心な御支援の賜と、感謝致して居ります。  
最近御投稿原稿に雄辯力作が多く特に長論文が山積してペー  
ジ制約より分割掲載が多くなつて居りますので、今後の御投  
稿については左の規定をお守り下さいませようお願い申上げ  
ます。

記

枚数 四〇〇字詰原稿用紙五〇枚以内。  
原稿×切 各奇数月の毎十日。

地利用の集約度を高めることを要求する。この結果犁耕が実施され、休閒期の短縮が余儀なくされるため、土壤侵蝕は激化し、やがては原住民農業の体系は破壊されてしまうといふのである。かかる過程の進行が熱帯の自然環境と密接に関連したものであることは明らかであるが、更に人口稀薄な熱帯にあつては、労働力が不足するため、勢い原住民に強制（半強制）労働を課すことにもなり、これが原住民社会を崩壊に導くことが強調されているのである。しかしながら他面、プランテーションに伴つて導入された西欧文明が熱帯の生活の向上に貢献した点も少くない。その第一は近代医学の進歩による風土病の克服である。これは土地利用の改善と密接に結びつき、むしろ従来から人口の多い地域が健康状態の改善に於ても進んでいることが指摘される。次に西欧文明は熱帯に世界市場への門戸を開いた。熱帯特産の農作物の幾種類かは広大な販路を得て増産され、黄金海岸のココアのように原住民の富を増し、その生活水準の向上に役立つものも少なくないと述べられている。ギネア湾岸の油ヤシ、ウガンダの綿、ウルンディのコーヒー、東インド・太平洋

のコブラ、ベンガルのジュート、マレーのゴムなどがその例であり、これらのプランテーションの成功は、食糧供給の十分な水田耕作地域におけるプランテーションの成功とともに熱帯の将来に明るい光を投げかけるものとして見られている。とくに樹木栽培に基礎をおく「Tree Plantation」は、土壤侵蝕をもたらしないう安定した栽植農業の方法として、集約度の高い水田耕作とともにその重要性が高く評価されているのである。

以上「熱帯地域」の内容についてその極くあらましを紹介したのであるが、僅か二〇〇頁足らずの小冊子に熱帯地域のもつ複雑な問題が見事にまとめあげられている。多年熱帯研究に従事した著者をえてはじめてなしよう

ことであるが、とくに熱帯各地域に亘る豊富な例証は、問題点を一層明確にし、本書の内容を精彩あるものとしている。ただここで惜まれてならないのは、本書の記述の重点が農業に置かれているため、他の政治地理的・民族地理的諸問題が十分論ぜられなかつたことである。例えば熱帯住民の生活水準を論ずる際にも、過去における植民政策との関係には殆んどふれられていないし、又、近時、熱帯各

地に起りつつある人種問題や民族運動に関しても全然意見が述べられていない。こうした問題について著者の今後の論評が期待されるころである。しかしこのような不満も実は決してそれほど重要なものではない。何故なら熱帯の社会・経済諸条件に対する著者のすぐれた分析は、たとえ農業への傾斜が大きくても、十分それ以外の問題を我々自身で考える際の基礎を与えてくれるからである。ともあれ、熱帯全体をとり扱つた適当な概説書のみられない今日、本書を手にしうることになつたことは未来の土地、熱帯のためにも心から喜ばねばならない。

—— 佐々木高明 ——

#### 執筆者紹介

- 佐伯 富 京都大学助教授
- 田中 稔 奈良国立文化財研究所員
- 伊藤 道治 京都大学人文科学研究所助手
- 佐藤 長 京都大学助教授
- 志郷 晃佑 京都大学大学院学生
- 佐々木高明 京都大学大学院学生

石田一良著

# 浄土教美術

文化史学的研究序論

A5 二九二頁 七〇〇円  
写真 二五頁挿入 千五百円

浄土教美術展開の諸相を恵心・法然・親鸞の三段階に分つて論じながら、それら諸派のもつ美術作品のうち、その宗教体験(聖)と美的精神(美)との緊密な内面的・必然的共感關係を發見し、これによつて、それらの宗教美術の本質を、正當に理解させようとしたもの。日本仏教史・思想史・美術史研究者に多くの啓発を与え得る、と確信できる力作である。

村上嘉実著 ハサーラ叢書2V

# 中国の仙人

抱朴子の思想

B6 16頁 三五〇円  
二七三頁 千三百円

現代の科学は人間の欲望の一部を実現したが、科学は人間に安心立命を与えてくれるものではない。人間の一切の欲望を肯定をしつつその中に安心立命し、宇宙人生の道究めたものが中国の仙人の思想であることを、多くの事例をあげつつ説明する。

古田紹欽著 ハサーラ叢書3V

# 近世の禪者たち

B6 二五二頁 三〇〇円 千三二円

沢庵・白隠・仙厓・盤珪・鉄眼をはじめ西田幾太郎・鈴木大拙に至るまで、近世近代の特色ある多くの禪者の芸術的生涯やその風貌を描いた興味ゆたかな評伝である。

・近刊・

梁の武帝 森三樹三郎著

日本仏教思想の展開 家永三郎編

京都市中京区東洞院三条上ル

## 平楽寺書店

振替口座京都613番

### 委員交替について

本会委員狩野直禎氏(東洋史)が今回病氣のため委員を辞退され、笹沙雅章氏が新委員に委嘱されましたので、お知らせ致します。

### 編集後記

本号は論説において中国關係を三篇、しかも古代より近世にいたる時代を、文献あるいは考古学的資料から検討した、多彩な内容をもちえたことは編者の欣びとするところである。これに庄園の構造に新たな角度から着目した田中氏の論著を加え、西洋史・地理学からはそれぞれ興味ある近刊の外書の紹介をいただいた。

大篇であるため分載を余儀なくされた論文が多く、著者にも読者にも御迷惑をかけた次第であるが、多角的な視野から史学の綜合を使命とする史林の立場を以て諒とされたい。しかし、論文はなるべく完結した形で発表したいので、今後の投稿は一篇五〇枚以内という規定を守つていただくようお願いする。

(西谷)

一九五六年六月二十五日印刷  
一九五六年七月一日発行

定価 百円

史林 (第三九卷 第四号)

京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部内

発行所 史学研究会

理事 長 振替京都五一五五番  
編輯主任 原 随園  
赤松 俊秀

印刷所 中村印刷株式会社  
京都市下京区七条御所ノ内東町三九

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. XXXIX NO. 4

Jul. 1956

---

### CONTENTS

#### Articles :

Conflicts on the Markets for Huai-nan (淮南) Salt(I)···*T. Saeki* (1)

A Study of Miyata-no-sho (宮田庄),  
Tanba-no-kuni·····*M. Tanaka* (21)

The Latest Studies and Excavations of Yin Sites(I)····· *M. Ito* (45)

Princess Chin-ch'êng's (金城公主) Entrance into  
Tibet (III)····· *H. Sato* (63)

#### Book Reviews

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

*(The Society of Historical Research)*

Kyoto University, Kyoto, Japan